

気象コラム(2)

大阪労山のみなさま、こんにちは。

2回目は、天気予報で使われている言葉の話です。

予報でよく耳にする「一時」と「ときどき」の違い、わかるでしょうか？

例えば、「曇り一時雨」と「曇りときどき雨」はどう違うのでしょうか？

気象庁のホームページでは、次のように解説されています。

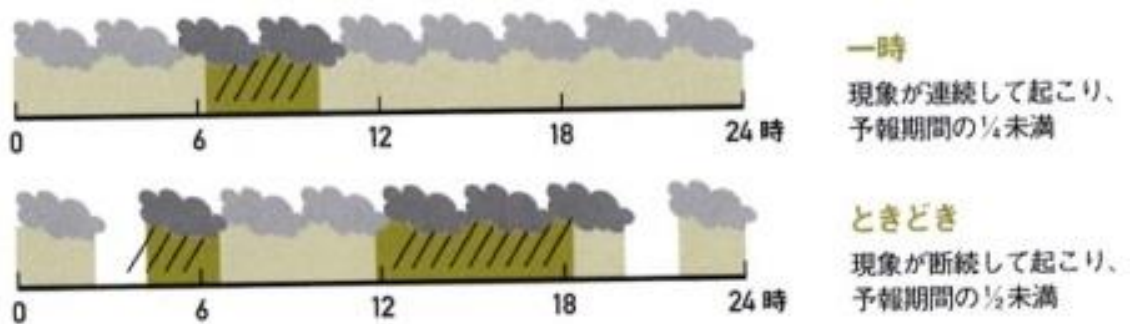
一時：現象が連続的に起こり、その現象の発現期間が予報期間の1/4未満のとき

時々：現象が断続的に起こり、その現象の発現期間の合計時間が予報期間の1/2未満のとき

ポイントは、断続的か連続的かということと、発生時間が半分未満か1/4未満か、ということのようです。

予報期間とは、発表された予報の対象期間ということなので、例えば、明日(0時～24時)の予報が「曇り一時雨」の場合、連続的に6時間未満の雨が降る、と予想していることになります。

一方、同じ場合で「曇り時々雨」と発表されたときは、雨が降ったりやんだりし、雨の合計時間が12時間未満と予想していることになります。



猪熊隆之著『山岳気象大全』より抜粋

あくまで予報なので、実際には連続的ではなかったりすることもあると思います。細かいことは多少幅をもって解釈してください。また、説明不足の部分もありますので、詳しくは気象庁HPなどで確認してください。

(高田和孝/H.C.teruru)